

2024年度 ほたるサポーターの紹介

*本誌への紹介を希望されない方は掲載していません。

寄付者

◎10口以上のご寄付をいただきました (3000円/1口)

さとう行政書士・社労士事務所 工房シーダーノ 沢井 進一 地域環境社会研究会 金崎 いよ子

◎3口以上のご寄付をいただきました (3000円/1口)

下田 義春 山本 藤太郎 古川 道夫 中 明子 山口 幸江

◎1口以上のご寄付をいただきました (3000円/1口)

BIWAKO PEARLS SURPRISE NPO法人碧いびわこ 株式会社清原 加村 勇 小林 靖雄 柴田 恵美子 鈴木 祐揮
庄 郁雄 竹内 辰郎 竹山 瑞祥 長尾 幸子 平山 奈央子 他1名/匿名希望

賛助会員

東 善広 石田 昇平 井野 清治 岩崎 祐子 岩本 照美 上田 一好 上野 加寿紀 大谷 明代 大瀬 洋子 金崎 崇
川上 幸代 倉嶋 昭廣 蔵田 良美 杉野 久男 須佐見 芳江 瀬川 香 瀧沢 守 田島 龍一郎 多田 稔 田中 三千子
谷口 淑恵 寺田 光江 戸田 博通 長尾 克矢 並河 聡 野田 浩資 廣田 昌代 福永 理美 藤井 明徳 藤本 幸子
古川 晴美 細谷 卓爾 本田 恭子 松居 弘次 三浦 豊司 安田 英行 山口 幸江 山添 史郎 山田 亘宏 山本 藤太郎
林 知佳 横田 円香 赤木 亜矢香 鶴家 知栄子 中西 久子 野田 ひかり 中 秀行
旭化成(株)守山製造所 株式会社 かめやクリーニング 株式会社 清原 クラブサンタクロース 湖南・甲賀環境協会
湖南ホームタウン (社会福祉法人滋賀県障害児協会 これから行動隊 ぎとう行政書士・社労士事務所 NPO法人滋賀環境かんせー協会
鉄人工房マツヤ (有)バンカー保険事務所 びわ湖・大津ノルディックウォーキングクラブ 株式会社 森川商店
社会福祉法人守山向日葵会 若帖こども園 守山市金融協議会 NPO法人 ゆうらいふ 一般社団法人守山野洲市民交流プラザ
ライズヴィル都賀山 NPO法人 碧いびわこ

各種会費・寄付がクレジットカードでできるようになりました

当法人の年会費(個人2000円・団体3000円)および賛助会費(一口3000円)が、オンラインでクレジットカード決済できるようになりました。さらに、ご寄付にもクレジットカードがご利用いただけます。お手続きは、右記のQRコードを読み取っていただくことで簡単に行うことができます。手続き方法がわからない場合は、どうぞ事務局までお気軽にお問い合わせください。今後とも、当法人へのご支援をよろしくお願い申し上げます。



今月の詩

年やえに 浅き眠りに夢を見る 楽しき事は見る事もなし
パソコンを 活用しきれぬもどかしさ 齢重ねし指を見つめる I・K

しじみのひとりごと

毎年、2月頃になると、第1なぎさ公園で、「カンザキハナナ」の黄色い花が見頃を迎えます。対岸には比良の山々が、澄みわたる空とともに大きなキャンバスを広げています。比良山の白い雪、空の青、菜の花の黄色、冬の守山を彩るすばらしい自然の織りなす芸術です。昨今は寒さ厳しい日はありますが、雪はあまり降らず、比良の山なみが真っ白になっていません。そのせいか、花の黄色の「映え」が少し弱いように感じます。以前は冬になると比良の山々は一面真っ白になりました。しかし徐々にそういう姿を見られる日が少なくなってきたように思います。短い時間の流れの中でも、自然の姿が変わりつつあるのが気にかかります。 I.S



ほうじょうのさと 豊穰の郷だより 人と環境のネットワーク

Vol.104
2025/3/15 発行
発行部数 1,500部

水辺の楽校 (春編)

3月2日(日)に、目田川河川公園にて水辺の楽校春編を行い、41人の参加がありました。小雨の中、はじめに守山市立図書館横からスタートし、目田川沿いを約200mの区間でごみ拾いを行いました。そして、ほたるの森資料館が作ったホタルクイズでゲンジボタルの生態を



学んだ後、幼虫を目田川に放流しました。ほかにも目田レンジャーによる活動発表や、ごみのお話も行われ、楽しく学ぶことが出来ました。その後、目田川沿いにハズイタウン守山より守山市に寄贈された、かまどベンチを使って、アルミ缶を使ったはんごうすいさんを行いました。不安定な天気の中でごみ拾いを頑張った後に食べるカレーとご飯がとてもおいしかったです。かまどベンチを使用したはんごうすいさんは、災害が起きたときのためのよい備えになったと思います。

近畿ろうきん「推しのNPOプロジェクト」に選ばれました！

この度、近畿ろうきんが進める「推しのNPOプロジェクト」の”推し団体”に、当法人が選ばれましたことをお知らせいたします。

「推しのNPOプロジェクト」とは、近畿ろうきんの営業店・店推進委員会が、地域で子ども・子育て支援活動を行っているNPO団体の中から、活動内容に共感できる団体を選び出し、年に一度寄付を行う仕組みです。この度、当法人がその「推しのNPO」に選ばれたことは、私たちにとって大変光栄であり、地域社会からの信頼と期待を強く感じております。このご期待に応えるため、今後も水環境保全を通して地域に根差した活動を一層強化し、子ども・子育て支援をはじめ、環境リーダー育成などさまざまな社会貢献活動を続けていきたいと考えています。

発行	認定NPO法人 びわこ豊穰の郷	TEL/FAX	077-583-8686 (有線 583-8686) / 077-558-5007
理事長	金崎 いよ子	E-MAIL	houjyouunosato@lake-biwa.net
住所	守山市勝部5丁目10-25	URL	https://lake-biwa.net/akanoi/

大型豪華客船ピアンカで目田レンジャー13人が目田川での活動を発表

お天気にも恵まれ気持ちのいい湖上の風が吹く中、11月9日(土)近畿「子どもの水辺」交流会 in 滋賀2024がピアンカ船上でおこなわれました。近畿地方2府3県から小学生を中心に125人の子供たちと保護者が集まり、子供たちによる水辺の活動発表会。目田レンジャーには初めて発表を経験したメンバーも。多くの質問も寄せられ充実した交流会となりました。デッキではびわっ子大使OBOG5名による滋賀県紹介もあり、OBメンバーでもある目田オレンジが湖魚の漁について発表しました。他にも水質調査、プランクトン観察や魚観察など、盛りだくさんの体験内容で目田レンジャー達は満足の一日となりました。



第22回川づくりフォーラム開催



講師の牛島さん

3月8日(土)に第22回川づくりフォーラムを守山市立図書館で開催しました。当日は講演者として牛島釈広さんを迎え、4団体の発表など、合計約50名の参加者がありました。今回は“水辺でつながる交流会”をテーマに、水辺で活動している参加者同士で意見交換をして新しい気づきを得てほしいという想いで企画しました。びわこ豊穡の郷でインターンをしている大学生の私自身もこのフォーラムを通して、水辺づくりの関わり方は1つではなく、その環境や目的にあった寄り添い方があると気づきました。

こどもエコクラブ壁新聞コンクール

12月8日(日)、琵琶湖博物館で開催された「こどもエコクラブ壁新聞コンクール」で目田レンジャーが発表し、三連覇を成し遂げました。今回の新聞は、ホテルを守ろうプロジェクト(仲間を増やすことを目的とした守山市立図書館横での生物調査活動)や、ホテルが自生している天野川(米原市)との比較についてまとめました。審査員の皆さんからは、地域に良い活動であると、天野川に足を運んで比較したことを評価頂きました。表彰式の後、琵琶湖博物館学芸員による「滋賀県の水と暮らし」のお話やクイズでメンバーの知識を深めたところで、3月23日(日)に大阪府咲洲庁舎で行われる「こどもエコクラブ全国フェスティバル」で滋賀県代表として参加してきます。乞うご期待ください!!



シリーズ

水辺の楽校アラカルト① ~メダカの楽校~

第1回は、2004年8月で「メダカの楽校」として、鳩の森公園ホテル飼育ケージ横のピオトープメダカ池で開催しました。講師は美崎公園パークセンター指導員の故中村一雄氏でした。活動テーマとしたメダカは、水環境の変化で急激に少なくなり、絶滅危惧種に指定されてホテルとともに水環境のシンボルとされていることです。プログラムは、水調べ、水草の植栽とメダカの学習、ザリガニ退治、ネイチャーゲームにセミのおもちゃ作りでした。

(『20年のあゆみ』より)



メダカの楽校の様子

みんなの河川クリーン作戦



当初予定日が荒天のため、11月24日(日)に守山川浮気町のJRガード上流から、市役所近く吉身2丁目までの900mを2班に分かれて、9時30分から2時間行いました。参加者は、吉身学区の当NPO法人の会員で、子ども2名と大人6名でした。この河川クリーン作戦の目的は、赤野井湾流域河川から赤野井湾・琵琶湖に流入するごみを、それぞれ地域の河川で食い止めようと、2017年から行っています。2020年には、立入町・岡町を流れる吉身川で行いました。今回拾い集めたごみは、プラスチック類のペット

ボトル・トレイ・菓子や食品袋や衣類そして、缶や瓶・傘などもあり、総重量約55kgにもなりました。特にプラスチック類は、やがてマイクロプラスチックになって、魚や人間にも悪影響が出る可能性があります。このことから今後も、学区内の主要河川のクリーン作戦にご参加のご協力をお願い致します。

湖底に眠るごみ

湖岸にはびこるオオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウ

赤野井湾再生プロジェクト

11月16日(土)赤野井湾において湖底ゴミ除去活動、外来水生植物除去活動が行われました。企業、団体、自治会、市民、行政等、約100名の参加がありその結果、湖底ゴミの総重量は212.1kg、内プラスチックゴミは149.2kg、全体の70.3%もありました。まだまだ一人一人のゴミに対する意識が必要と思いました。豊穡の郷の担当は外来水生植物の除去活動です。以前のような湖上の大規模な繁茂は無くなりましたが、湖岸の石組みには何れもはびこっています。できる限り鎌で根こそぎ刈り取る事が望ましいのですが、石組みの奥の奥まで手が届きません。暖かくなると残っている根からまたまた伸びてきます。また足場も悪く危険も伴います。除去活動が初めから「雑草もありオオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウが分からない!」と言いながらも頑張って頂き感謝申し上げます。この植物は越冬し、放置しておくと湖上にどんどん伸びていきます。解決策も無く今は「早期発見! 早期除去!」が重要です。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

